

ご取材のご案内

公益財団法人ヤマト福祉財団

**3 月 18 日より、ガレキ撤去専用底引き網を使用した
金華山の沖合い（水深 30m 超）のガレキ撤去作業を開始**

公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富慶二、以下：ヤマト福祉財団）「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金※」の第 1 次助成先の 1 つである「宮城県 海底清掃資材購入支援事業」では、助成金 1 億円が投じられた「ガレキ撤去専用底引き網」が完成し、3 月 12 日から底引き網漁船による仙台湾内海底のガレキ撤去を行ってききましたが、3 月 18 日より沖合いでの大規模な海底のガレキ撤去を開始いたします。

ガレキ撤去専用底引き網は、漁網メーカーのニチモウ株式会社と県内漁業関係者が共同開発したもので、回収・仕分けしやすいよう目あい（あみの目）を大きくし、摩耗に強い素材を使用したガレキ回収専用の底引き網です。回収用袋を装着することにより、60t 船で最大で約 20 立米程度のガレキの回収が可能となります。専用底引き網は、3 月までに宮城県漁業協同組合に 3 網、渡波漁船漁業協同組合に 2 網、宮城県沖合底びき網漁業協同組合に 1 3 網が納入されました。3 つの漁業協同組合はそれぞれ、所属する漁船の規模に合わせて、仙台湾内沿岸や金華山沖合いのガレキ回収作業を行います。

宮城県の基幹産業である漁業の漁獲高回復には、海底に堆積したガレキの撤去作業が不可欠であると、震災直後から広く報じられてきました。しかし震災から 1 年以上を経た今でも、作業が進まない地域が数多くあるのが現状です。例えば、石巻漁港では、養殖漁場を中心とした水深 30m までの沿岸で、クレーン船を使ったガレキ撤去作業が進み、漁業の本格再開に向けた準備がある程度進んでいます。一方で水深 30m を越える沖合いでは、底引き網や刺網の漁業者が操業時等に自主的な撤去を行わなければならない、漁業操業を開始したものの、いまだに多量のガレキが堆積されているため、漁の妨げとなっています。

ガレキ撤去では、宮城県漁業協同組合に所属する 3 隻と、渡波漁船漁業協同組合に所属する 2 隻が仙台湾内沿岸、宮城県沖合底びき網漁業協同組合が保有する 1 3 隻が水深 30m 超の沖合いで専用底引き網を使用した回収作業にのぞみます。ガレキの撤去により、県内はもとより、三陸地域の重要漁港として、被災地漁業の本格的な復旧・復興に貢献できると考えております。1 年を経たものの、復興は未だ途上にあります。宮城、そして東北の漁業再生への歩みとなる今回の取り組みを、ご取材賜りますようお願い申し上げます。

※各漁業協同組合の作業詳細につきましては、別紙の「各漁業協同組合 作業詳細」をご参照ください。

本件に関する報道関係の皆様方からのお問い合わせは下記までお願いいたします。

公益財団法人ヤマト福祉財団 担当：早川・渡辺（03-3248-0691）

【各漁業協同組合 作業詳細】

	宮城県沖合底びき網漁業協同組合	宮城県漁業協同組合	渡波漁船漁業協同組合
作業期間	3月18日～3月29日	3月12日～4月(予定)	3月12日～3月31日
出港時間	16:00	7:00	6:00
帰港時間(目安)	24:00 以降	14:00	13:00
出港・帰港場所	石巻港	亶理町荒浜港	石巻港
作業場所	金華山沖合	仙台湾内※	仙台湾内※
船の規模	大型船(65t～75t)	小型船(10t未満)	小型船(9.7t)
専用網を装着した隻数	13隻	3隻	2隻
ガレキを降ろす場所	石巻漁港付近 (トラックで処分場へ)	亶理町荒浜港付近 (トラックで処分場へ)	石巻漁港付近 (トラックで処分場へ)
連絡先	0225-93-8795 大澤 様	0223-35-2111	0225-94-9338 加藤 様

※ここでの仙台湾とは、石巻湾、松島湾、仙台湾(狭義)を含み、石巻港、荒浜港、相馬港を有するエリア全体を指します

【石巻港 詳細地図】



【亶理町荒浜港 詳細地図】



※ 公益財団法人ヤマト福祉財団「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」は、東日本大震災で被災された地域の生活基盤の復興や水産業・農業の再生を支援することを目的に創設されました。140億円以上が見込まれるヤマトグループの「宅急便1個につき10円の寄付」をはじめ、広く一般からも募金を募り、単なる資金提供だけでなく、新しい復興モデルを育てるために役立てていくことを目指しています。既に24件の事業に対して、105億円以上の助成を行っています。詳細につきましては、ヤマト福祉財団のホームページ (<http://www.yamato-fukushi.jp/>) をご参照ください。

